

ヤングケアラー実態調査の結果について

山口県ヤングケアラー実態調査の目的と調査方法等について

1 目的

- ◆ 本来大人が担うような家事や家族の世話などを日常的に行うヤングケアラーは、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負うことで、本人の生活や教育に影響があることが問題となっているが、家庭内のデリケートな問題であるため表面化しにくい。
- ◆ このため、県内の児童生徒における家族の世話の状況や、それに伴う日常生活への支障、支援ニーズ等の実態を把握し、今後必要な支援施策について検討を行うため、小学5年生から高校3年生までの児童生徒を対象としてヤングケアラー実態調査を実施した。

2 調査方法等

(1) 調査方法

学校を通じて、保護者に事前に調査概要とヤングケアラーの概念や相談窓口を紹介する文書を配付し、調査に対する協力を依頼した。保護者への周知の後、教職員から児童生徒に調査目的や回答方法等を記載した文書を配付し、児童生徒本人がタブレット等を用いて、インターネットを通じて無記名式アンケートに回答した。なお、インターネットでの回答が難しい学校には、紙の調査票を学校に配付し、児童生徒本人が回答した調査票を学校を通じて回収した。

(2) 調査期間

令和4年7月4日～令和4年7月31日 ※当初、令和4年7月18日までとしていたが、期間を延長した。

(3) 調査対象学年、人数及び回答率

県内の国立、公立（県立、市町立）及び私立学校に通う小学5年生から高校3年生までの児童生徒を対象に実施した。

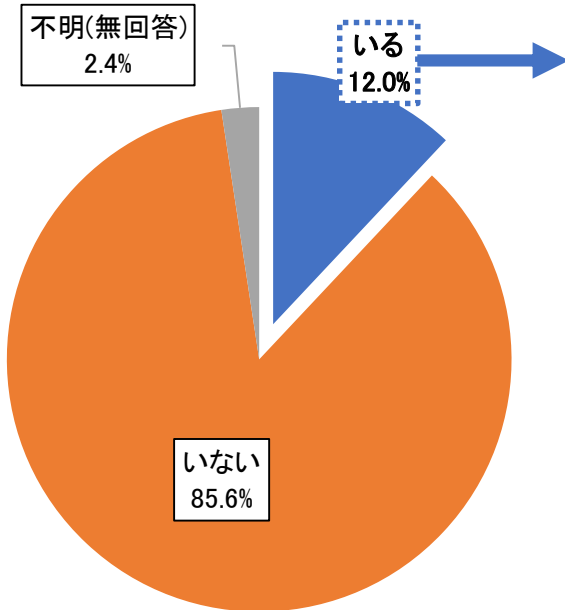
	学年	対象人数※1	回答数	回答率
小学生	5・6年	21,291人	18,298人	85.9%
中学生	全学年	32,667人	27,187人	83.2%
高校生	全学年※2	36,375人	16,894人	46.4%
合計		90,333人	62,379人	69.1%

※1 令和4年5月1日時点 ※2 定時制・通信制を含み、定時制4年生と専攻科は除く

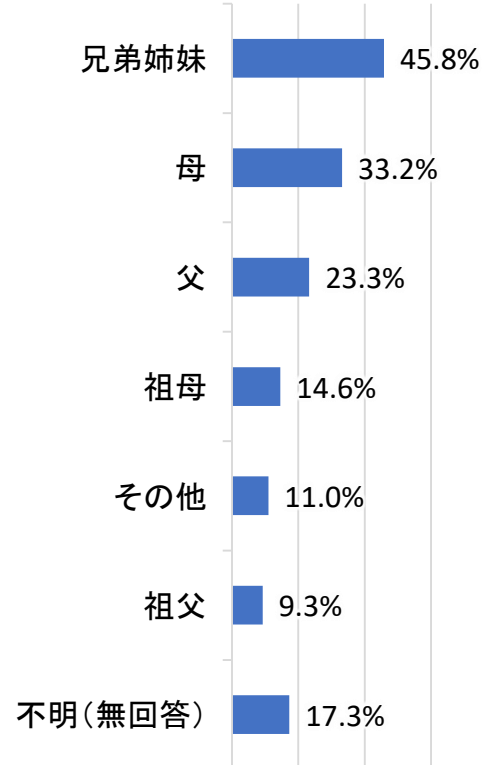
山口県ヤングケアラー実態調査について① ～「世話をしている家族の有無」等～

- ◆ 世話をしている家族が「いる」と回答したのは、回答者全体の**12.0%**（国調査 小6：6.5%、中2：5.7%、高2：4.1%）
- ◆ 世話をしている家族は、「兄弟姉妹」が45.8%と最も多く、次いで「母親」が33.2%となっている。
- ◆ 世話をしているために、やりたいけどできていないことが「ある」と回答したのは、回答者全体の**2.3%**で、この回答者については、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負ったヤングケアラーの可能性があり、支援を検討していく必要がある。

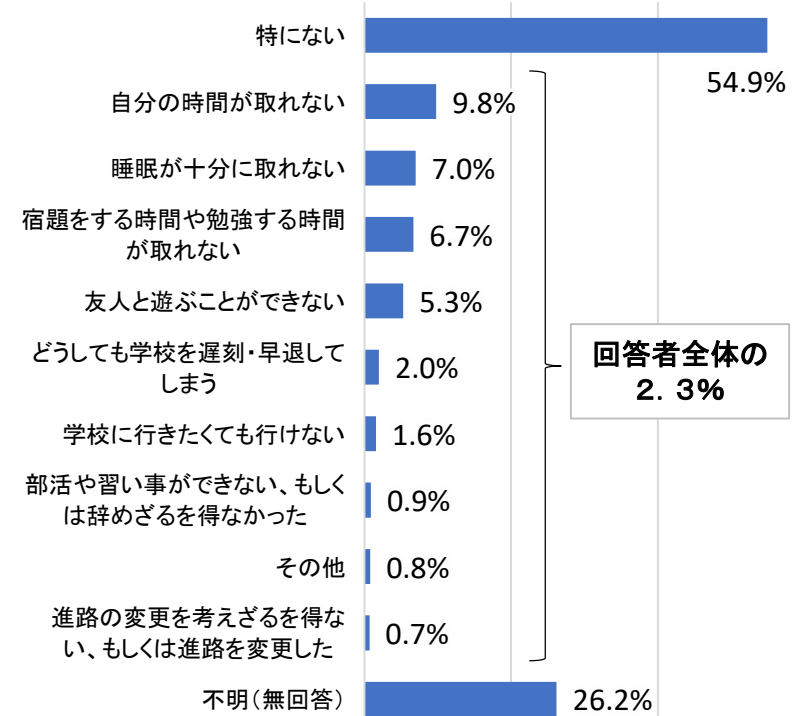
世話をしている家族の有無



世話をしている家族(複数回答)

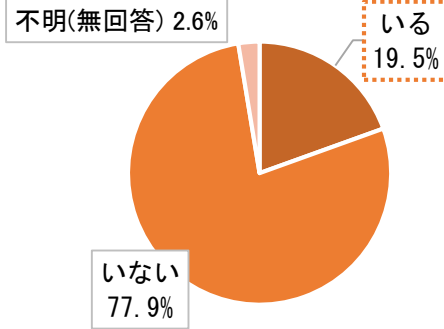


世話をしているために
やりたいけどできていないこと(複数回答)

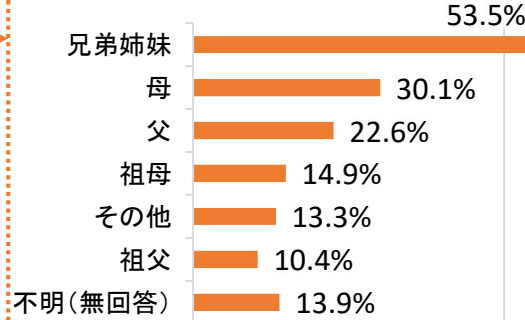


山口県ヤングケアラー実態調査について② ～「世話をしている家族の有無」等～

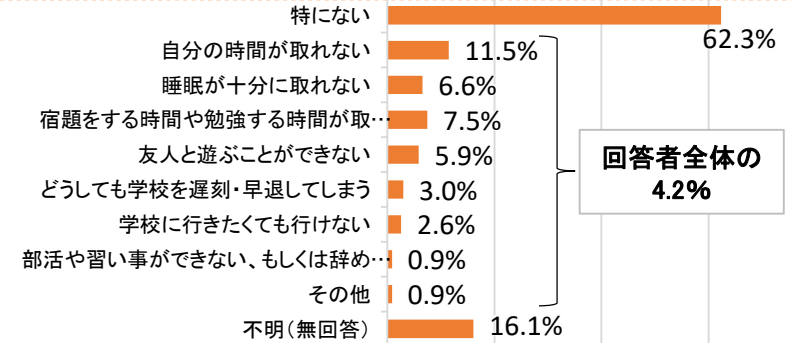
世話をしている家族の有無



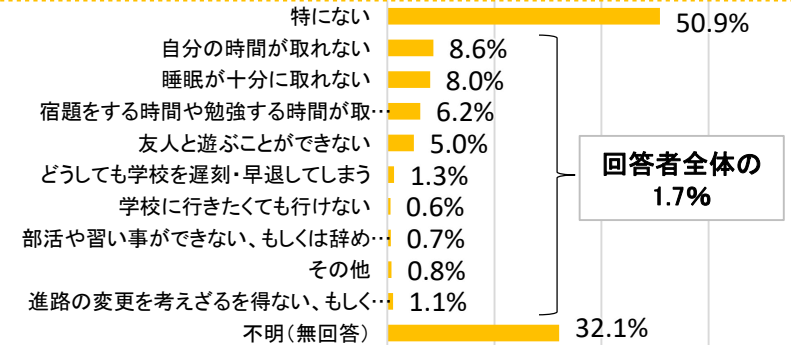
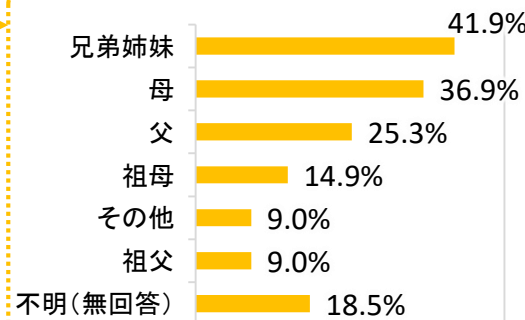
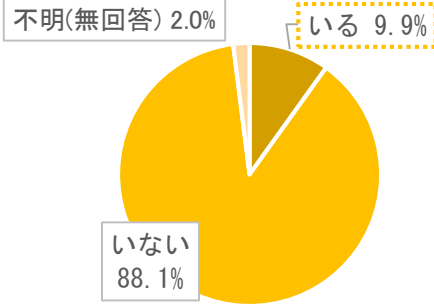
世話をしている家族(複数回答)



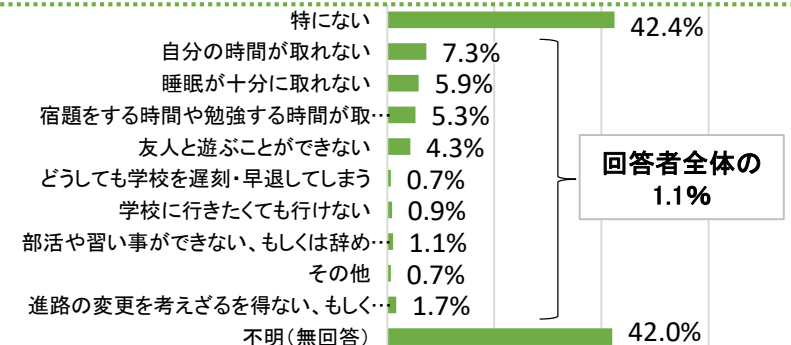
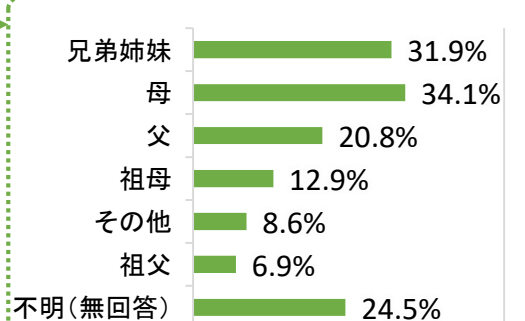
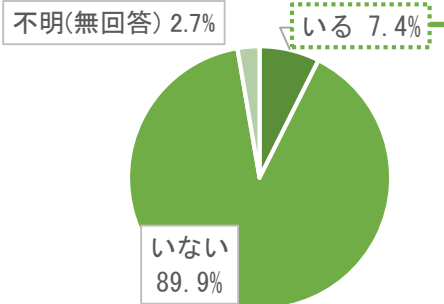
世話をしているために、やりたいけどできていないこと(複数回答)



【小学生】



【中学生】



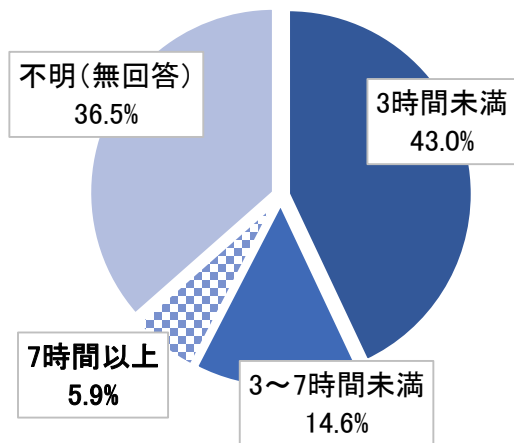
【高校生】

山口県ヤングケアラー実態調査について③ ～「1日当たりの世話に費やす時間」等～

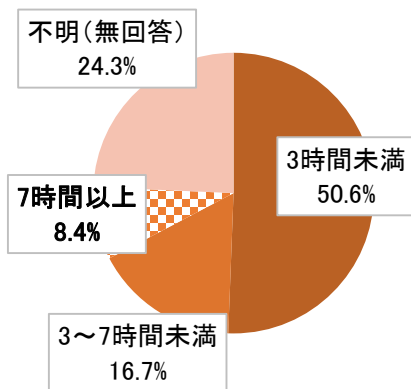
◆ 1日当たりの世話に費やす時間が7時間以上と回答したのが、世話をしている家族がいる者全体の5.9%（平日）、10.6%（休日）

平日1日当たりの世話に費やす時間

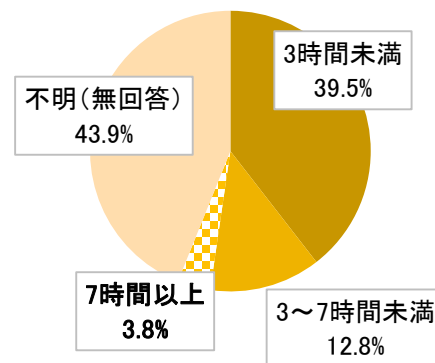
【全体】



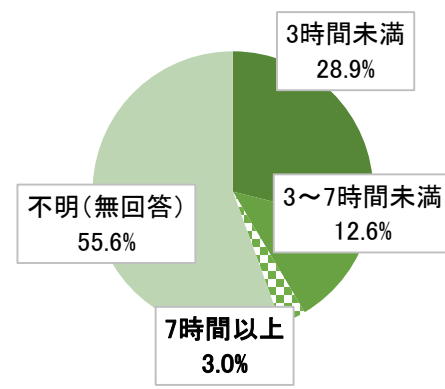
【小学生】



【中学生】

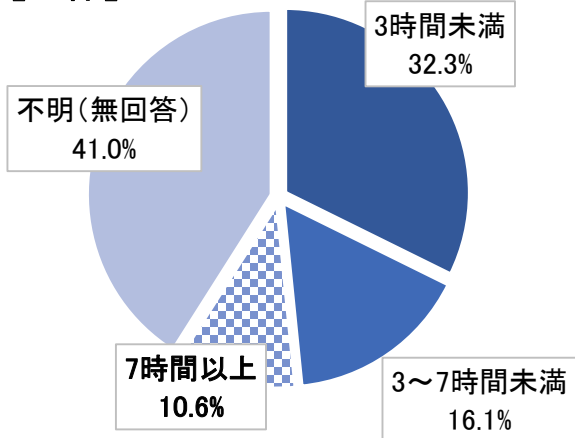


【高校生】

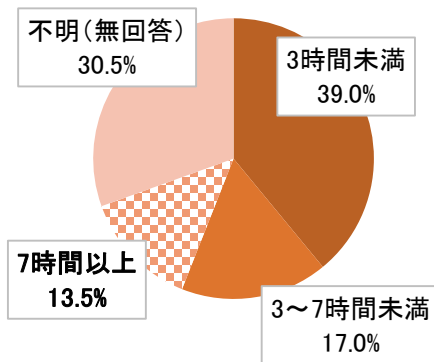


休日1日当たりの世話に費やす時間

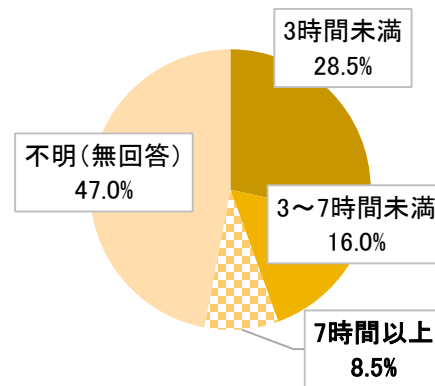
【全体】



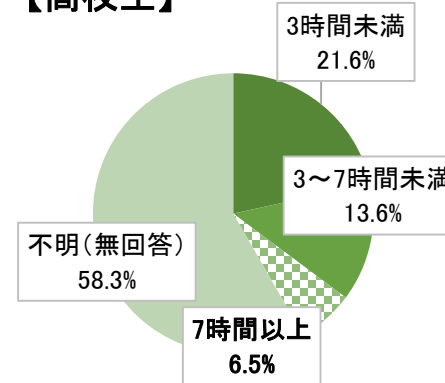
【小学生】



【中学生】



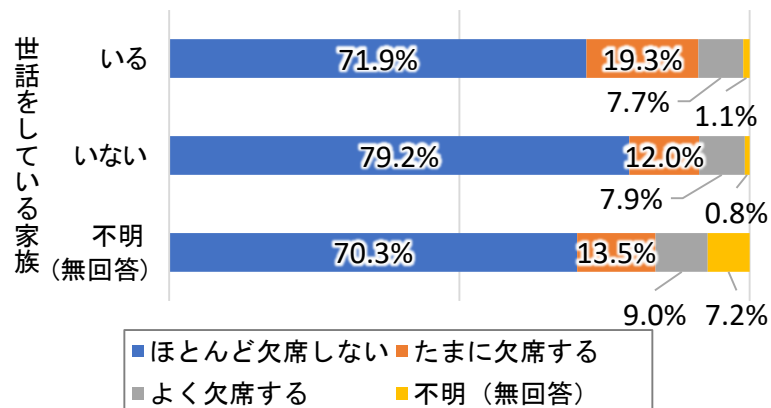
【高校生】



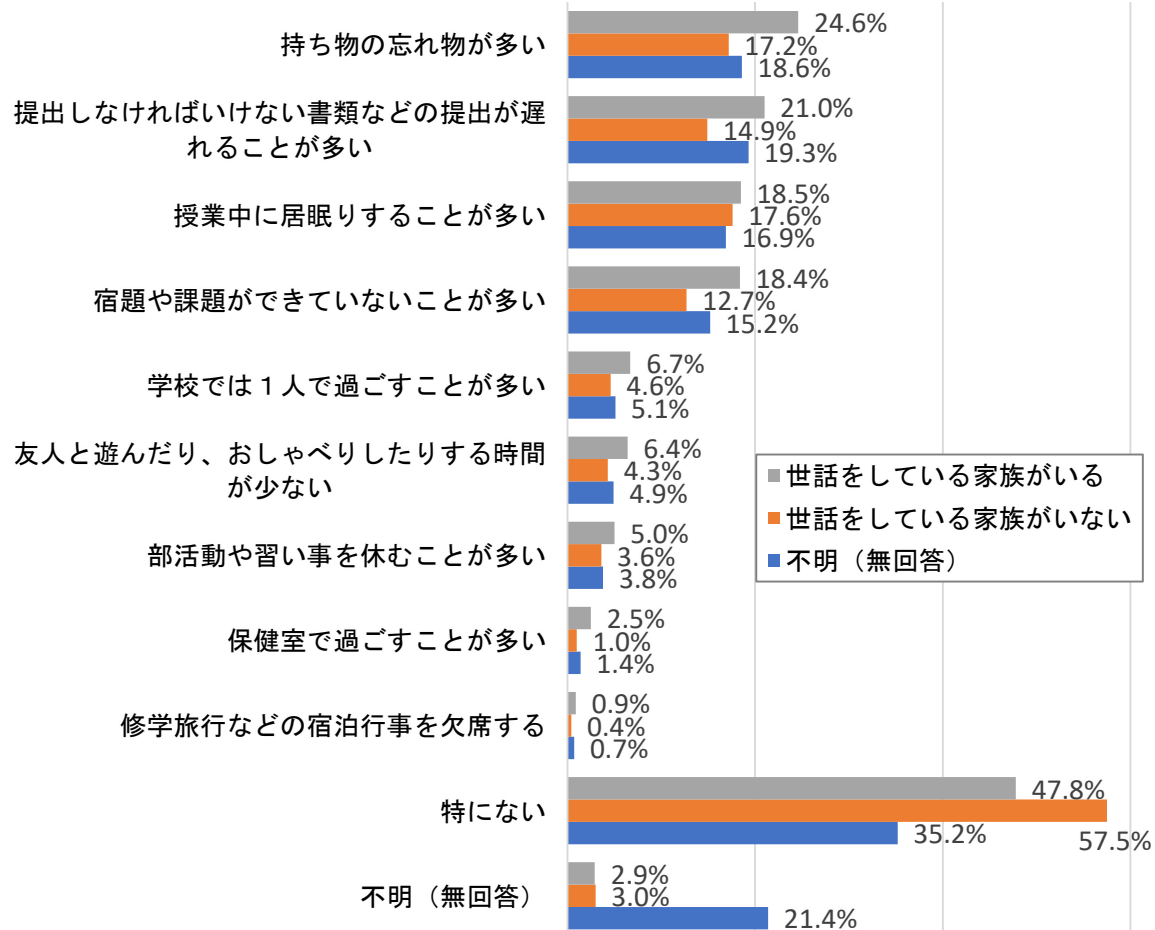
山口県ヤングケアラー実態調査について④ ～「家族の世話の有無と学校の出席状況」等～

- ◆ 世話をしている家族がいる場合は、いない場合に比べて、学校を「たまに欠席する」と「よく欠席する」を合わせた割合や、遅刻や早退を「たまにする」と「よくする」を合わせた割合が高い。
- ◆ 世話をしている家族がいる場合は、いない場合に比べて、「持ち物の忘れ物が多い」、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」、「授業中に居眠りすることが多い」、「宿題や課題ができていないことが多い」が高くなっている。

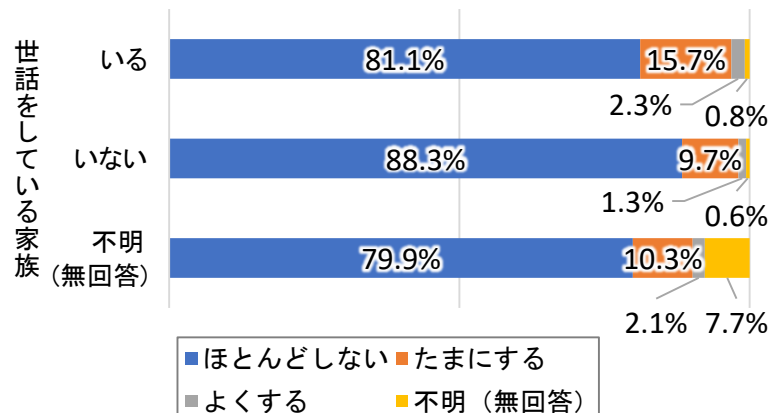
「家族の世話の有無」と「学校の出席状況」



「家族の世話の有無」と「学校生活等であてはまること」(複数回答)

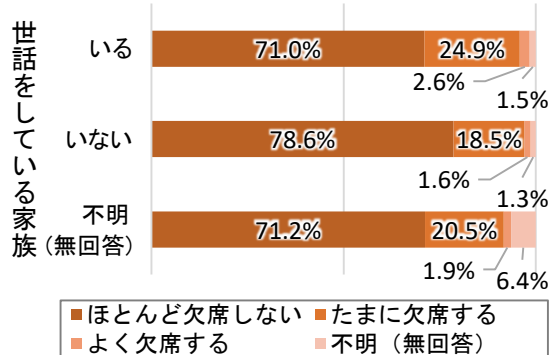


「家族の世話の有無」と「学校の遅刻や早退の状況」

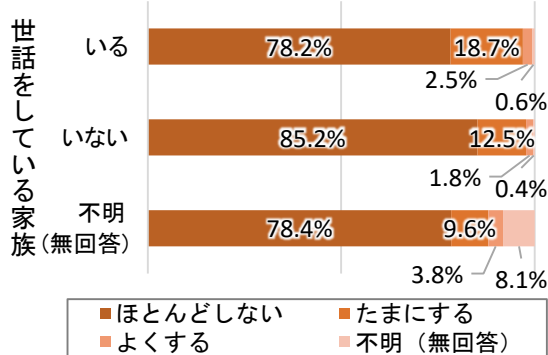


山口県ヤングケアラー実態調査について⑤ ～「家族の世話の有無と学校の出席状況」等～

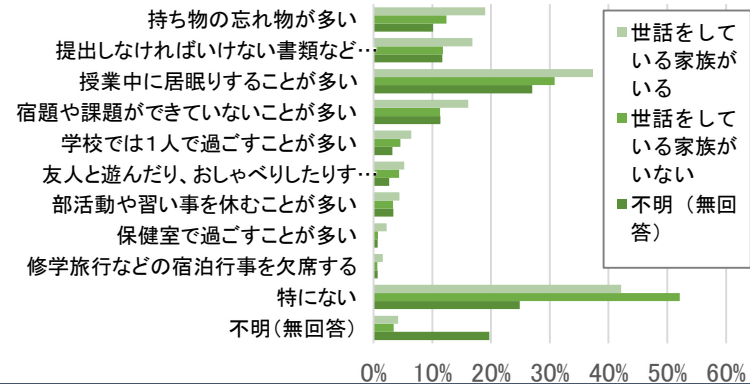
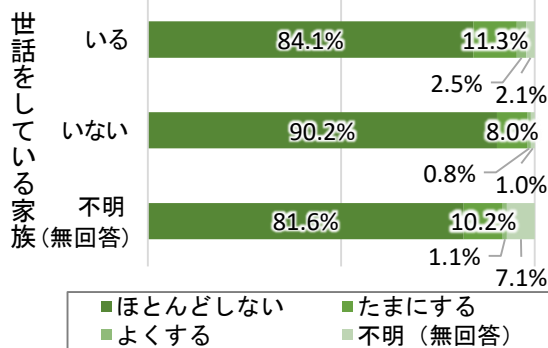
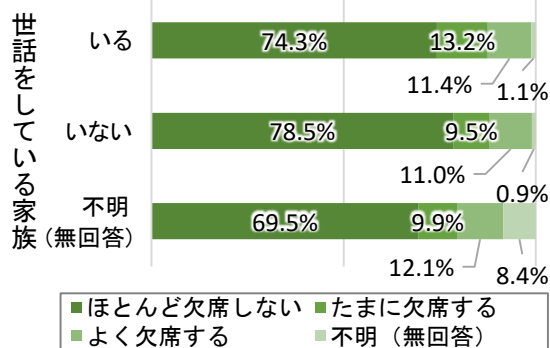
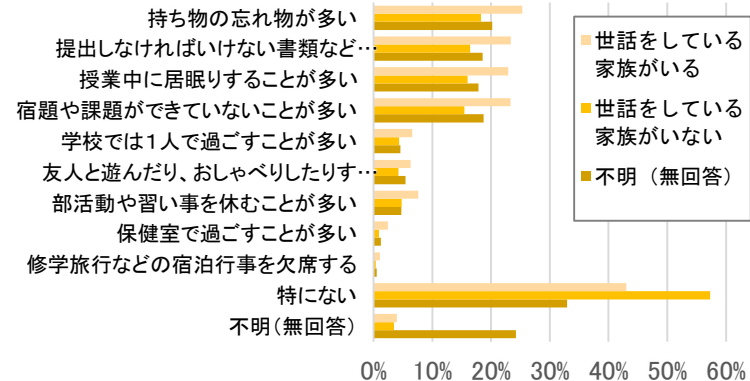
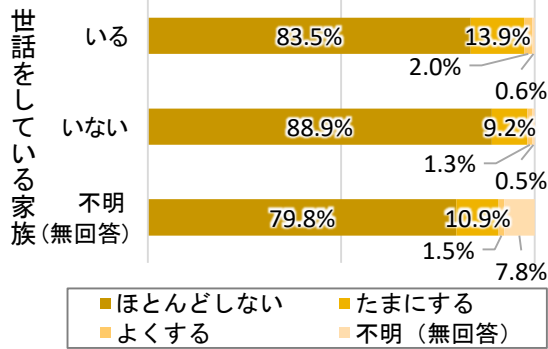
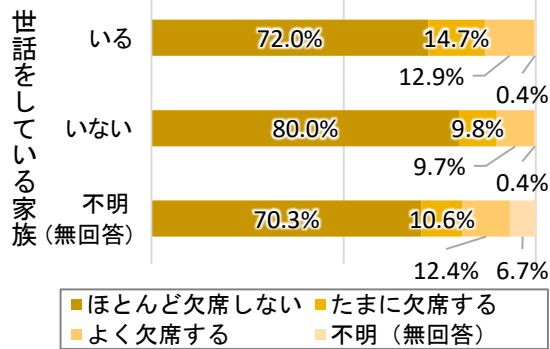
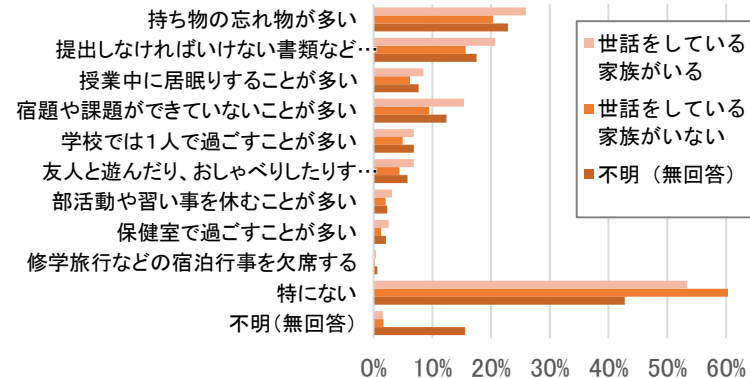
「家族の世話の有無」と「学校の出席状況」



「家族の世話の有無」と「学校の遅刻や早退の状況」



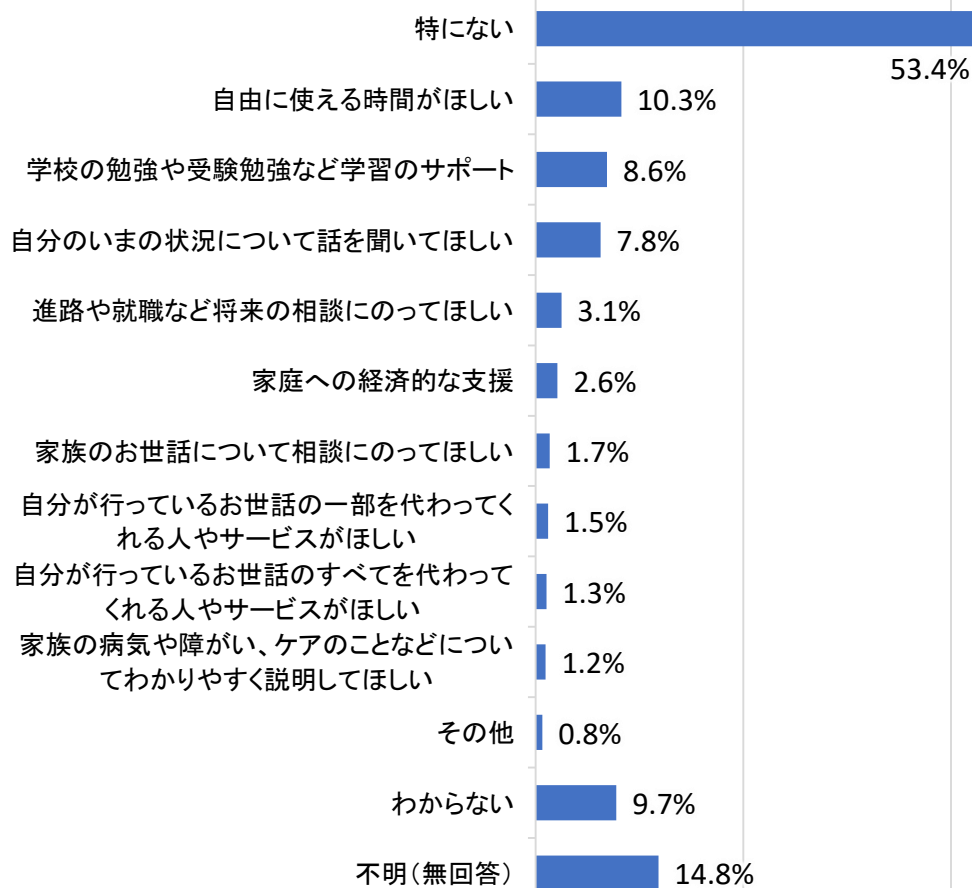
「家族の世話の有無」と「学校生活等ではまるとこと」（複数回答）



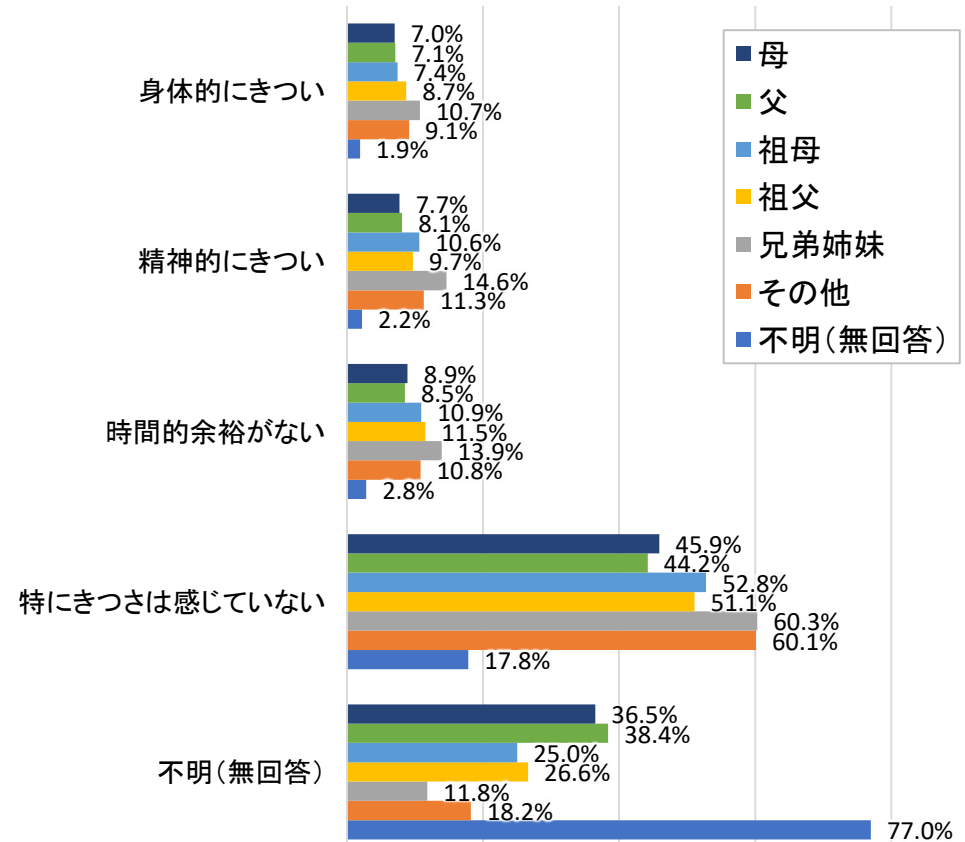
山口県ヤングケアラー実態調査について⑥ ～「必要としている支援」等～

- ◆ 世話をしている家族がいる者が、学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援については、「特にない」が53.4%で最も高いが、その他では「自由に使える時間がほしい」や「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が高くなっている。
- ◆ 世話の相手別の世話をすることにより感じているきつさでは、「兄弟姉妹」を世話をしている場合は、「特にきつさは感じていない」が最も高いが、「身体的にきつい」「精神的にきつい」「時間的余裕がない」も、父母や祖父母を世話をしている場合と比べて高い。

学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援(複数回答)



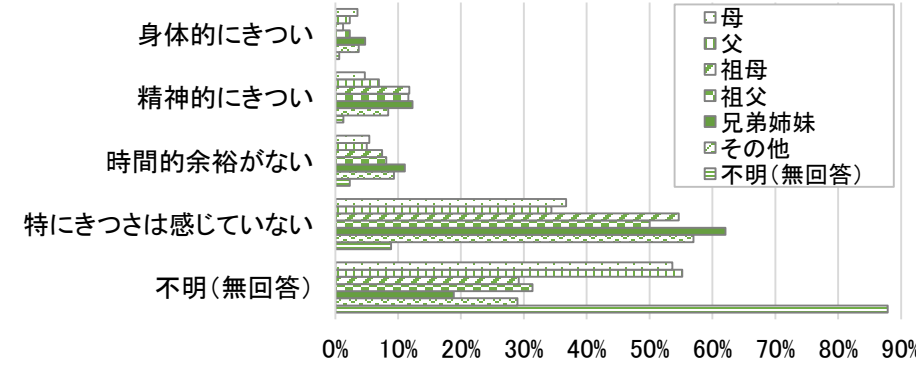
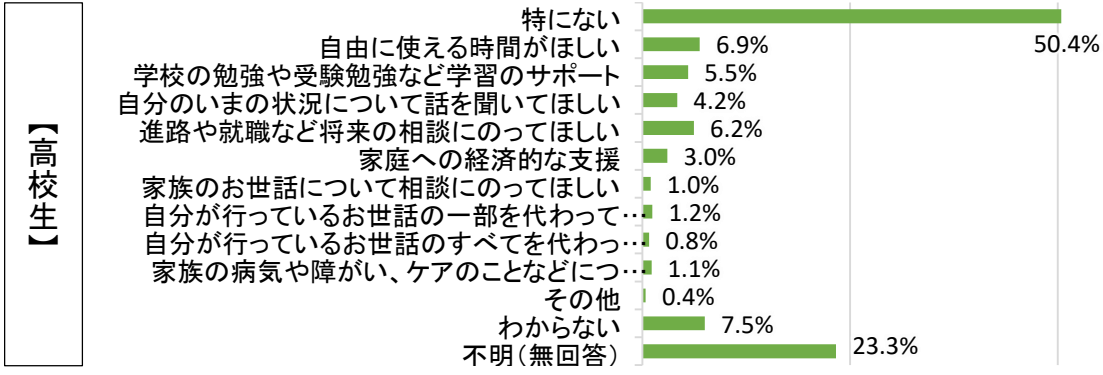
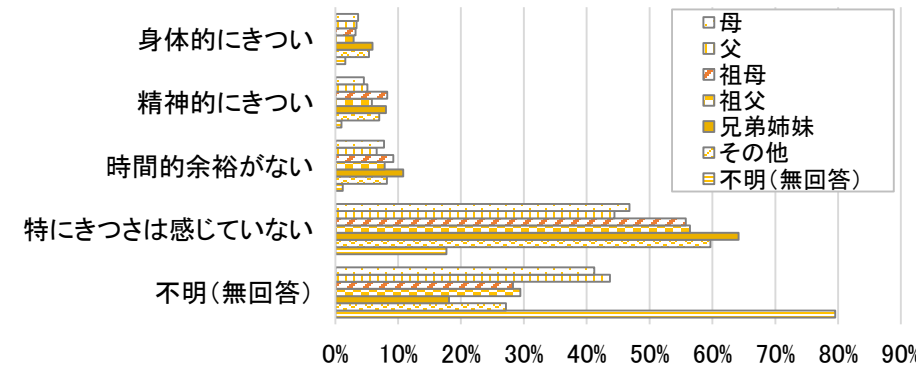
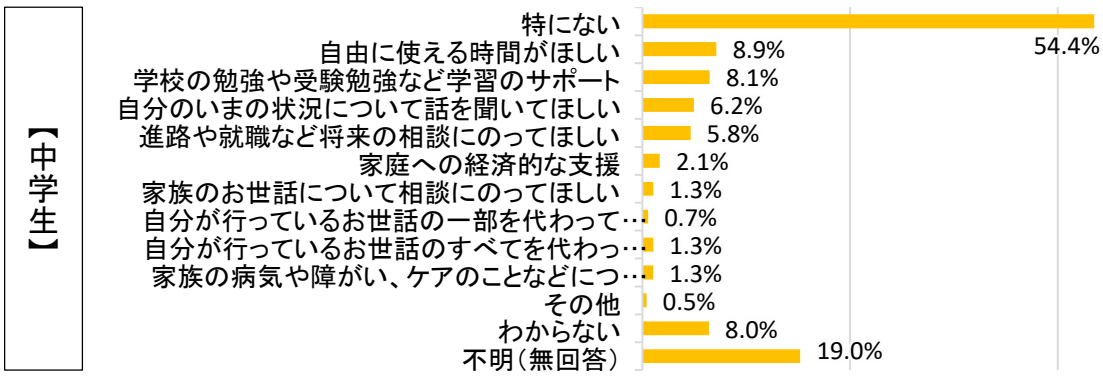
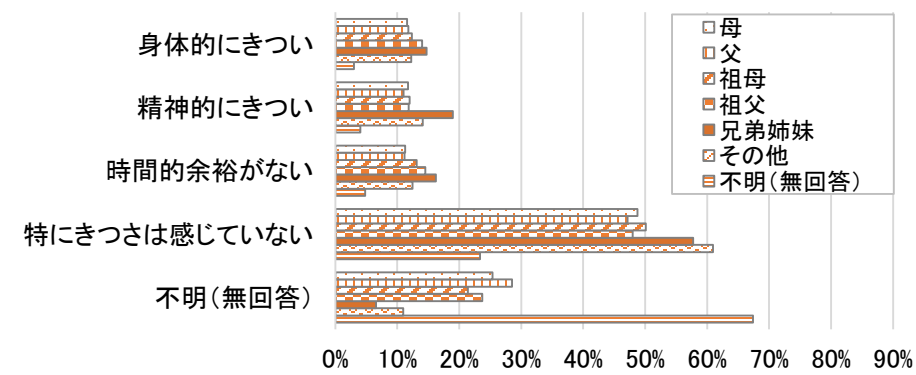
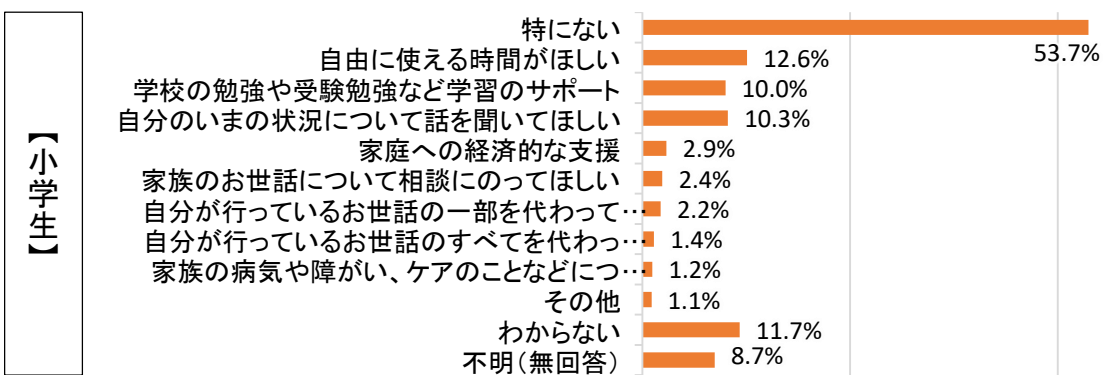
世話の相手別の世話をすることにより感じているきつさ(複数回答)



山口県ヤングケアラー実態調査について⑦ ～「必要としている支援」等～

学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援(複数回答)

世話の相手別の世話をすることにより感じているきつさ(複数回答)

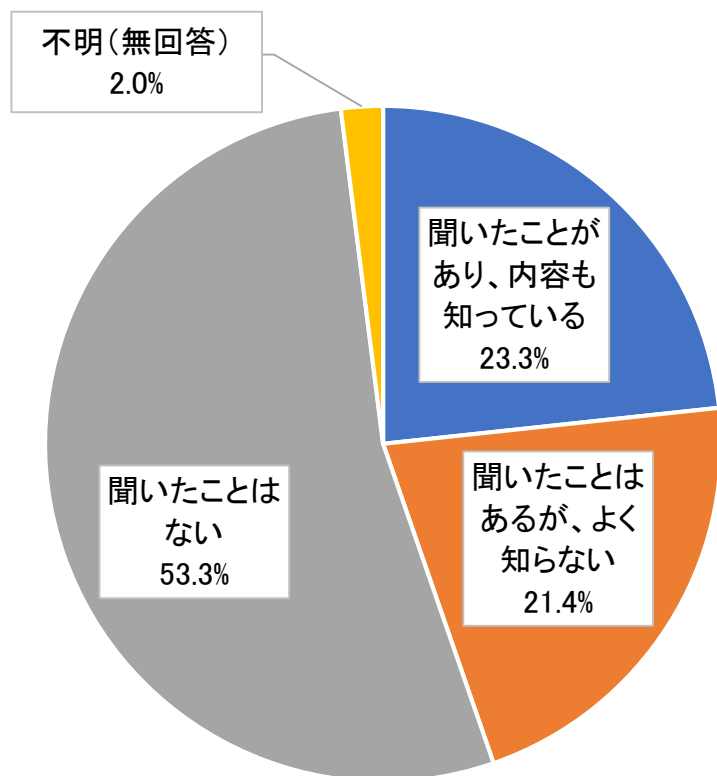


山口県ヤングケアラー実態調査について⑧ ～「ヤングケアラーの認知度」等～

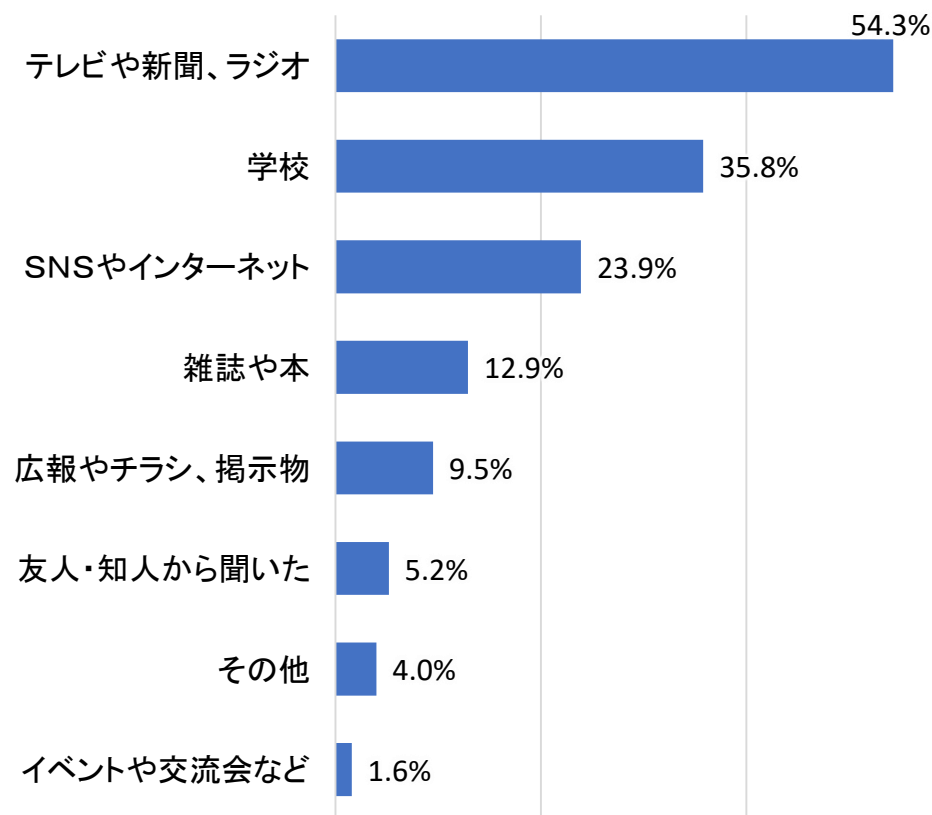
- ◆ ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」の合計は44.7%で、約半数が聞いたことがあると回答している。（国調査 中2：15.1%、高2：12.6%）
- ◆ 聞いたことがある者がヤングケアラーについて知ったきっかけは、「テレビや新聞、ラジオ」が最も高く、次いで「学校」「SNSやインターネット」が高かった。

【回答者全体】

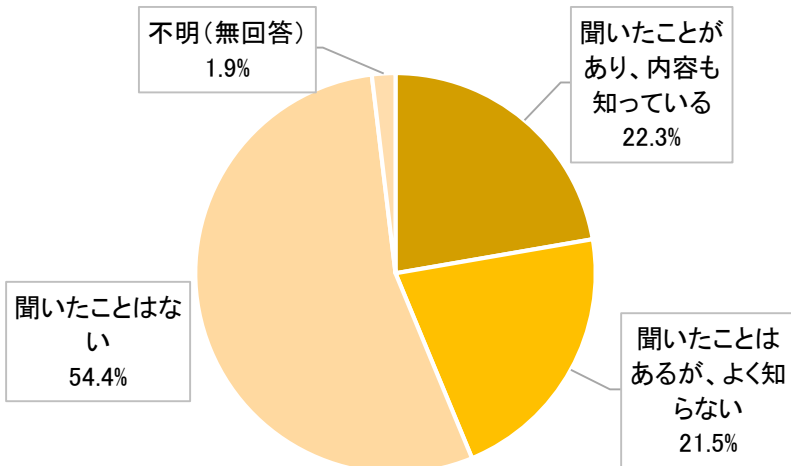
ヤングケアラーの認知度



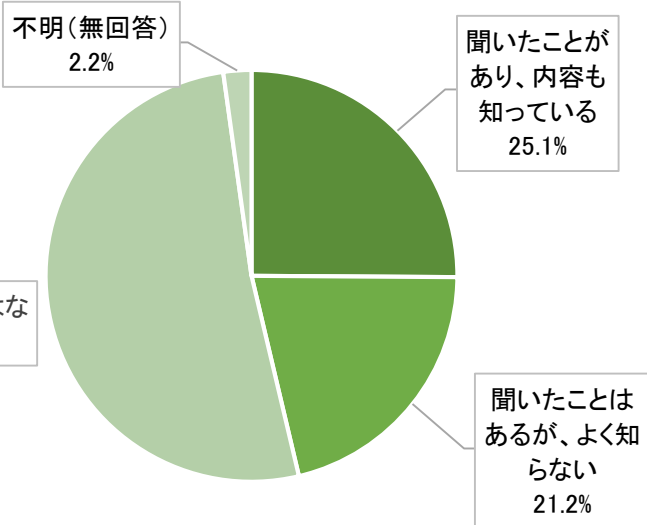
ヤングケアラーについて知ったきっかけ（複数回答）



ヤングケアラーの認知度

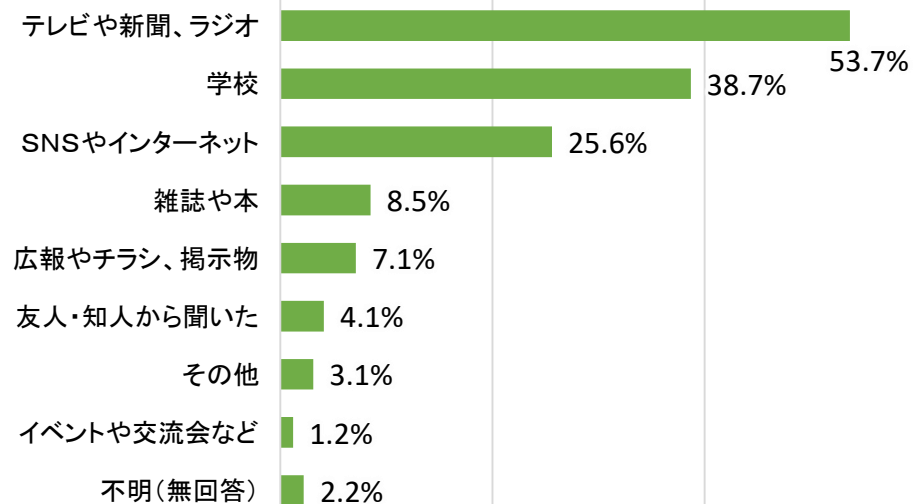
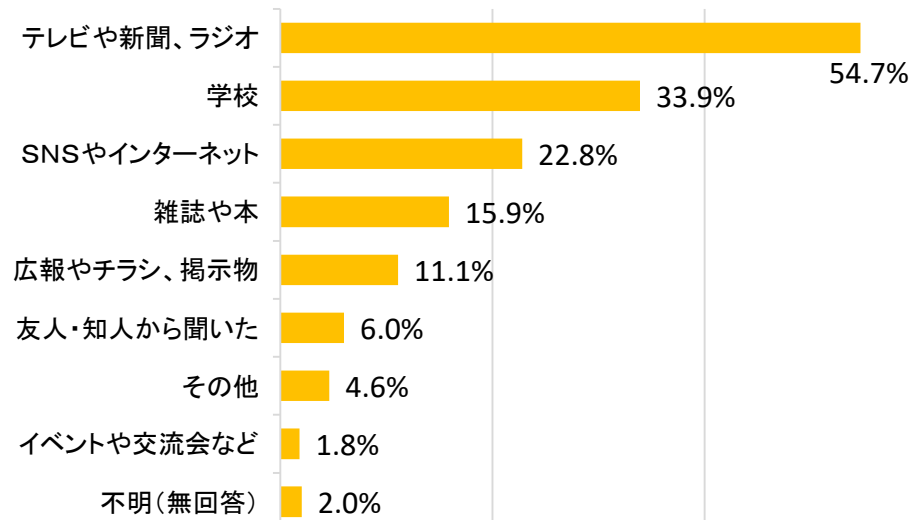


【中学生】



【高校生】

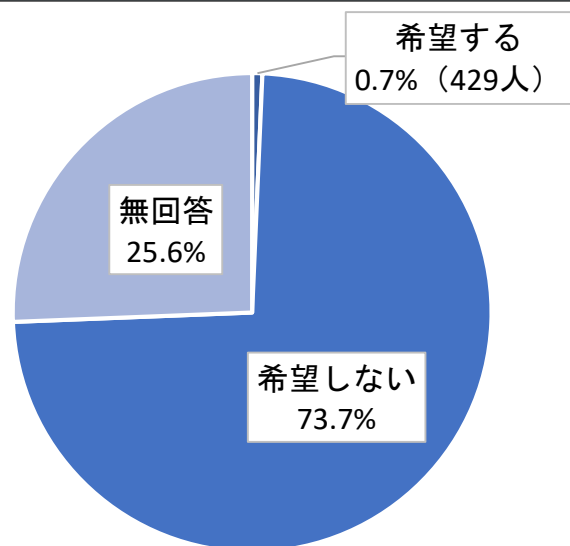
ヤングケアラーについて知ったきっかけ(複数回答)



山口県ヤングケアラー実態調査について⑩ ～「学校の先生たちへの相談希望」～

- ◆ 県独自に、今回の調査を悩みや困りごとを抱えている児童生徒の支援につなげるため、「学校や家庭のことについて、学校の先生たちへの相談を希望しますか」という設問を設定し、相談を希望する児童生徒は学校名と氏名を入力することとした。
- ◆ 学校の先生たちへの相談を希望した児童生徒は回答者全体の0.7%（429人）で、氏名等の記載があった315人については、所属する学校に対して、悩みや困りごとを聴取し、対応状況を令和4年10月末までに報告するよう依頼した。
- ◆ 令和4年10月20日現在、学校から164人の対応状況の報告があり、そのうち**5名（小学生3名、中学生2名）**については、児童生徒から聴取した結果、ヤングケアラーに関する相談であったと回答があった。

学校の先生たちへの相談希望



【相談を希望した児童生徒の内訳】

氏名等の記載	小学生	中学生	高校生	計
あり	131人	139人	45人	315人
なし	22人	52人	40人	114人
計	153人	191人	85人	429人

対応状況（R4. 10. 20現在）

【小学生】131人中53人分について回答

聴取結果	件数
聴取した結果、ヤングケアラーに関する相談であった	3人
聴取した結果、ヤングケアラー以外の相談であった	49人
その他（該当者がいなかった）	1人

【中学生】139人中83人分について回答

聴取結果	件数
聴取した結果、ヤングケアラーに関する相談であった	2人
聴取した結果、ヤングケアラー以外の相談であった	79人
その他（該当者がいなかった）	2人

【高校生】45人中28人分について回答

聴取結果	件数
聴取した結果、ヤングケアラーに関する相談であった	0人
聴取した結果、ヤングケアラー以外の相談であった	28人
その他	0人

山口県ヤングケアラー実態調査について⑪ ～ 調査結果に係る考察 ～

1 支援を必要とするヤングケアラーの状況について

- ◆ 家族の世話をしているため、やりたいけどできていないことが「ある」と回答したのは、回答者全体の2.3%で、この回答者については、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負ったヤングケアラーの可能性があり、支援を検討していく必要がある。
- ◆ 世話をしていることで、「どうしても学校を遅刻・早退してしまう」、「学校に行きたくても行けない」、「進路変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した」等の深刻な影響が出ていると回答した児童生徒も存在することから、早急な対応が求められる。

2 ヤングケアラーの気づきにつながる特徴について

- ◆ 世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、学校を「たまに欠席する」「よく欠席する」の割合が高いことや、遅刻や早退を「たまにする」「よくする」の割合が高いことが分かった。
- ◆ また、世話をしている家族がいる場合、「持ち物の忘れ物が多い」「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」「宿題や課題ができていないことが多い」等の特徴が見られることも分かったため、こうした特徴を踏まえ、周囲の大人がヤングケアラーにいち早く気づくことができるような取組が必要である。

3 ヤングケアラーの認知度について

- ◆ ヤングケアラーについて、「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」の合計は44.7%で、令和2年度の国調査（中2：15.1%、高2：12.6%）を大きく上回っており、啓発活動に一定の効果があったものと推察される。
- ◆ 今回の調査は、小学5年生から高校3年生までの児童生徒を対象として実施し、調査説明の中で児童生徒本人と保護者に、ヤングケアラーの概念と悩みや困りごとがある場合の相談窓口について周知したことから、一層の認知度向上につながったと考えられる。
- ◆ また、聞いたことがある者がヤングケアラーについて知ったきっかけは、「テレビや新聞、ラジオ」が最も高く、次いで「学校」や「SNSやインターネット」が高かったことから、調査結果を踏まえて、効果的な周知に取り組んでいくことが必要である。